

3月11日から 梶コレクション展 開幕 新収蔵絵画 初公開

国立西洋美術館（東京都台東区上野公園 7-7、館長 田中正之）は、2025年3月11日から6月15日まで小企画展「梶コレクション展—色彩の宝石、エマーユの美」を開催します。また同じく3月11日より常設展において新収蔵作品を2点お披露目いたします。

◆「梶コレクション展—色彩の宝石、エマーユの美」開幕

鮮やかな色彩ときらめき、新コレクションお披露目！

2024年12月、当館に新たな工芸コレクションが寄贈されました。数にしておよそ150点。そのほぼすべてがエマーユの作品です。「エマーユ」は耳慣れない言葉かもしれませんが。これは仏語のカタカナ表記で、英語にするとエナメル、日本ではふつう七宝と呼ばれています。つまりエマーユとは、金属の下地にガラス質の釉薬（うわぐすり）を焼き付けた工芸品を意味します。寄贈者はジュエリーアーティストの梶光夫氏です。選りすぐられた珠玉のエマーユからなるこの新たな「梶コレクション」が、本展でデビューします。

梶コレクションについて

梶コレクションは19世紀後半から20世紀初頭のフランスで制作されたエマーユ作品が中心で、多彩なラインナップを揃えています。コインのような小さな単体や、ジュエリーに仕立てられたもの、小箱のふたを飾るもの、そしてカンヴァス画のような額縁に収められた大ぶりものまで、エマーユの姿形はさまざまです。その多くに、アール・ヌーヴォー時代の息吹を感じ取ることができることも、本コレクションの大きな魅力のひとつです。

本展のみどころ

今回の企画では、寄贈品以外に梶氏が所蔵するアルフォンス・ミュシャのポスターやエミール・ガレのガラス器、ルイ・マジョレルの家具等を加えて、当時の美術・工芸の豊かな世界の一端を感じ取ることができるような展示空間を演出します。

エマーユの最大の魅力は鮮やかな色彩と繊細なきらめきです。そうした魅惑的な光に満たされた小さな展示室に、ぜひお越しください。



①ポール・ボノー
《ルネサンス期ファッションの若い女性像》
1907年
50 x 50 cm(額寸)、17 x 17 cm(エマールユ)



②シャルル・ルベック
《ヴィーナスが描かれた脚付盃》
1863年
20 x 20 x 17 cm



③《愛の泉が描かれたピルケース》
1860年頃
6 x 6 x 3 cm



④《皇后テオドラ》
19世紀後半
2.6 x 2.6 cm

※作品はすべて国立西洋美術館蔵 梶コレクション 撮影:©上野則宏

【開催概要】

展覧会名 | 梶コレクション展—色彩の宝石、エマールユの美

Shimmering Beauty: A Debut Display of Enamels of the National Museum of Western Art's Kaji Collection

主催 | 国立西洋美術館

会期 | 2025年3月11日(火)～6月15日(日)

会場 | 国立西洋美術館 新館2階 版画素描展示室(〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7)

開館時間 | 9:30～17:30(金・土曜日は 20:00 まで) ※入館は閉館の30分前まで

休館日 | 月曜日、5月7日(水)

ただし、3月24日(月)、5月5日(月・祝)、5月6日(火・休)は開館

※開館時間・休館日の最新情報は国立西洋美術館公式サイトトップページ「お知らせ」をご確認ください。

観覧料(税込) | 一般500円、大学生250円

※高校生以下および18歳未満、65歳以上は無料、心身に障害のある方及び付添者1名は無料。

(入館の際に学生証または年齢の確認できるもの、障害者手帳をご提示ください)

公式サイト | <https://www.nmwa.go.jp/jp/exhibitions/2025emaux.html>

お問合せ | 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

国立西洋美術館公式サイト | <https://www.nmwa.go.jp/>

X @NMWATokyo / Facebook @NationalMuseumofWesternArt / Instagram @NMWATokyo

【関連プログラム】

プログラムの詳細・申込は公式サイトでご案内いたします。

■オンライン講演会(要事前申込・先着順)

「エマールユとは?—炎が生んだ色彩の宝石」

飯塚 隆(国立西洋美術館主任研究員/本展担当)

4月19日(土) 14:00～15:30

◆新収蔵絵画 2点初公開

初期イタリア・ルネサンスの典型的な聖母子像

ビアージョ・ダントニオ・トゥッチ 《聖母子と幼児洗礼者聖ヨハネ》

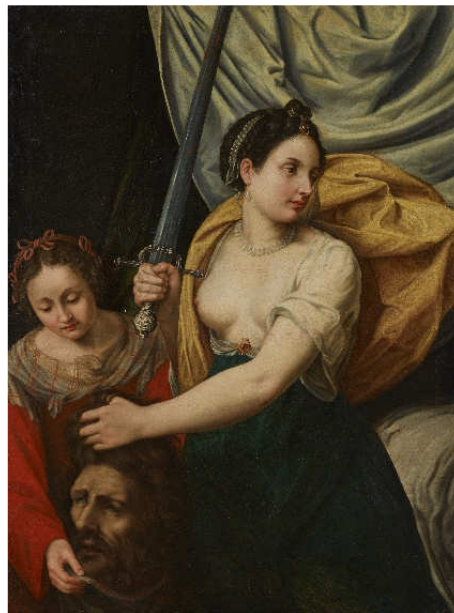
17世紀初頭のミラノで活躍した女性画家

フェーデ・ガリツィア 《ホロフェルネスの首を持つユディト》

国立西洋美術館は、中世から20世紀半ばに至る西洋美術の流れを概観するコレクションの形成を目指し、優れた西洋美術作品の収集に努めています。このたび、ビアージョ・ダントニオ・トゥッチ《聖母子と幼児洗礼者聖ヨハネ》とフェーデ・ガリツィア《ホロフェルネスの首を持つユディト》を新たに収蔵しました。3月11日より常設展示室にて公開します。



⑤ビアージョ・ダントニオ・トゥッチ
《聖母子と幼児洗礼者聖ヨハネ》
1490年頃
テンペラ、板
79.2 x 57.7 cm



⑥フェーデ・ガリツィア
《ホロフェルネスの首を持つユディト》
1622年頃
油彩、カンヴァス
127 x 95.5 cm

ビアージョ・ダントニオ・トゥッチは15世紀後半から16世紀初めにかけて、中部イタリアで活動した画家です。ボッティチェリやヴェロッキオ、レオナルド・ダ・ヴィンチといった芸術家たちと同時代に、彼らと同じフィレンツェやローマで活躍したこの画家の作品は、同時代の典型的な表現を見せます。聖母子像という形式は15世紀イタリア絵画において最もポピュラーなもののようですが、当館にはわずかな作例しかありませんでした。本作品は、イタリア・ルネサンス絵画史を物語るうえで当館のコレクションにとって重要な追加となります。

フェーデ・ガリツィアは17世紀初頭のミラノで活動した女性画家です。肖像画や静物画のほか、当時の女性画家としては珍しいことに、大画面の宗教画も手掛けました。本作品は彼女が晩年に手掛けた宗教画です。当館は女性芸術家の作品を積極的に収集しており、今回のフェーデ・ガリツィアの購入によって、女性画家による作品のコレクションは一層充実することとなりました。

■ビアージョ・ダントニオ・トゥッチ《聖母子と幼児洗礼者聖ヨハネ》

作品について

ルネサンス期のイタリアでは私的な礼拝のために、小ぶりの聖母子像が数多く制作された。聖母子と幼児洗礼者聖ヨハネは、しばしば見られる組み合わせである。

本作は当時のフィレンツェの流行を反映している。幼児キリストのポーズや彼を支える聖母の手の小指を曲げた表現、光に対する感受性には、フィレンツェの画家ヴェロッキオの絵画との関連が指摘されている。膝の上に立つ幼児キリストを聖母が支え観る者に呈示する形式もまた、とりわけヴェロッキオあるいはその工房の絵画や彫刻で好まれた。一方、薄明りの室内に親密な人物を配置し、背後の壁に開いた窓を通して遠くの風景を見せる工夫は、当時フィレンツェで流行した北方（特にフランドル）絵画にしばしば見られるものだ。ガラスの花瓶とその投影に見られる写実表現にも、北方絵画あるいはその影響を受けたフィレンツェ美術の研究の成果が見られる。

ビアージョ・ダントニオ・トゥッチ（フィレンツェ 1446年—フィレンツェ 1516年）

フィレンツェに生まれ、この町で修業した。初期作品にはとりわけフィリッポ・リッピ、そしてコジモ・ロッセッリを学んだ形跡が顕著であるが、1470年頃にはヴェロッキオの工房と接触したらしく、作風が近づいた。それ以外にも、ドメニコ・ギルランダイオやフィレンツェにもたらされた北方の画家の作品など、同時代の様々な美術の表現を都度取り入れている。

1476年にはファエンツァで活動していることが史料から知られ、その後少なくとも1504年まではこの地を拠点とした。ただしその間もフィレンツェと接触を保ち、常にこの町の美術の動向に目を向け続けた。1481年から翌年にかけてはバチカンのシステリーナ礼拝堂でコジモ・ロッセッリの壁画制作に協力した。同礼拝堂南側壁の「モーセ伝」6場面のうち《紅海渡渉》をビアージョに帰属する有力な説もある。

■フェーデ・ガリツィア《ホロフェルネスの首を持つユディト》

作品について

本作は2023年にオークションに出品され再発見されたもので、ガリツィア晩年の1622年頃に描かれた重要作である。表されているのは旧約聖書の登場人物ユディトで、彼女は故郷の町に攻め入った敵軍の将軍ホロフェルネスを己の美貌で誘惑し、泥酔させて斬殺した救国のヒロインである。ここではその敵将の首を侍女の持つ袋に収める場面が描かれている。ガリツィアはこの物語を主題とした作品を現存するだけでも6点制作しており、本作は其中で最後に描かれたものと考えられる。それ以前の、ディテールの緻密さを強調したマニエリスト的画風から転向し、大ぶりの筆致で形態のエッセンスを抽象的に表現する、バロック美術の演劇的な手法で描き出されているのが大きな特徴である。血の滴るホロフェルネスの首の下、侍女の持つ布袋の縁には、赤い文字で‘FEDE GALITIA’と署名が記されている。17世紀に入ってイタリア全土を席卷した新しい時代の絵画にガリツィアが適応しながら、様式をアップデートしていったことを見ることができる。

本作は17世紀の女性画家による作品として最初の収蔵作となる。

フェーデ・ガリツィア（トレント／ミラノ？ 1574年頃—ミラノ 1630年頃）

17世紀初頭のミラノで活躍した女性画家。トレント出身でミラノやその周辺で活躍した画家ヌンツィオ・ガリツィアの娘として、1574年頃ないし78年頃、ミラノないしトレントに生まれたと想定されている。彼女は1590年代から主に肖像画家としてミラノで名声を確立、その後ミラノやナポリなどの聖堂のための祭壇画や、1620年代にはトリノの宮廷のための作品を手掛けるなど、幅広い分野に作品を残した。しかし彼女の再評価は20世紀に入ってから、カラヴァッジョ直後の北イタリアにおける静物画の旗手として認知されるのを待たねばならなかった。現在では、アルテミジア・ジェンティレスキやエリザベッタ・シラーニと並んで、17世紀のイタリアを代表する女性画家のひとりとして位置づけられ、再評価が著しい。

●コレクション・イン・フォーカス（Collection in FOCUS）

常設展内では、所蔵品によるテーマ性の高い展示「コレクション・イン・フォーカス（Collection in FOCUS）」も行っています。

【開催期間：2025年3月11日～2026年2月（予定）】本館2階・新館1階（常設展示室内）



2025年

- 国立西洋美術館における額縁の保存・修復
- 幻想の実験場——「聖アントニウスの誘惑」が醸成した想像力をめぐって
- クールベとパリ・コミュニケーション
- ブラックの静物画——手で触れることのできる空間を求めて

同時期開催の企画展

●西洋絵画、どこから見るか？—ルネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 vs 国立西洋美術館

【開催期間：2025年3月11日～6月8日】企画展示室

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

■広報用画像のご提供について

本リリースに掲載している画像①～⑥を広報用にご用意しています。ご利用を希望される場合は、媒体名、発行日、ご担当者名、連絡先、ご希望の画像番号を記載の上、下記の広報に関するお問合せ先までメールにてご連絡ください。

広報画像 作品クレジット一覧

- ①ポール・ボノー《ルネサンス期ファッションの若い女性像》1907年 梶コレクション 撮影：©上野則宏
- ②シャルル・ルベック《ヴィーナスが描かれた脚付盃》1863年 梶コレクション 撮影：©上野則宏
- ③《愛の泉が描かれたビルケース》1860年頃 梶コレクション 撮影：©上野則宏
- ④《皇后テオドラ》19世紀後半 梶コレクション 撮影：©上野則宏
- ⑤ビアージョ・ダントニオ・トゥッチ《聖母子と幼児洗礼者聖ヨハネ》1490年頃 テンペラ、板
- ⑥フェーデ・ガリツィア《ホロフェルネスの首を持つユディット》1622年頃 油彩、カンヴァス

※本リリース掲載作品はすべて国立西洋美術館所蔵

■報道関係の方からの広報に関するお問合せ

国立西洋美術館 広報事務局（株式会社ユース・プランニング センター内）

TEL：03-6821-8229 Fax：03-6821-8869 E-mail：nmwa@ypcpr.com

（受付時間：平日 10：00～18：00 ※土日祝日の対応はしておりません。）